

「第3回坊っちゃん列車を考える会」議事要旨

1. 日時 令和6年11月28日(木) 16:00～16:45

2. 場所 市役所別館 6 階 第3・4委員会室

3. 参加者

野志 克仁	松山市長(招集者)
藤田 仁	松山市 副市長
清水 一郎	株式会社伊予鉄グループ 代表取締役社長
原 俊司	松山市議会 議長
太田 幸伸	松山市議会産業経済委員会 委員長
大塚 岩男	松山観光コンベンション協会 会長
福井 琴樹	松山商工会議所 専務理事
奥村 敏仁	道後温泉旅館協同組合 理事長
木原 光一	株式会社伊予銀行 常務取締役
仲本 範之	株式会社愛媛銀行 常務取締役
井口 梓	愛媛大学社会共創学部 教授

4. 次第

1. 開会あいさつ

2. 参加者紹介

3. 議事内容

(1)坊っちゃん列車に係るアンケート結果や経済波及効果算出の報告について

(2)運行に係る支援の方向性等について

(3)意見交換

4. 閉会

5. 議事の経過

○冒頭、野志市長からのあいさつの後、参加者の紹介が行われた。

○松山市から坊っちゃん列車に関するアンケート結果と経済波及効果、支援の方向性の考えを説明し、参加者が意見交換を行った。松山市と参加者からの主な発言は以下のとおり。

(松山市)

・いよぎん地域経済研究センターから提出された報告書を基に、運行継続や市の負担の是非、乗車経験の有無や満足度、乗車理由、経済波及効果など、主な結果を報告。

(市民向け)運行継続希望が76.1%

(市民向け)赤字負担やクラウドファンディングなど、市の関与希望が61.5%

(県外向け)訪問場所は、道後温泉、松山城、坊っちゃん列車と続き、約3割が坊っちゃん列車を旅行の目的の一つとしている。

経済波及効果は、1年あたり2億1,570万円

- ・アンケート結果や経済波及効果から、坊っちゃん列車の必要性や公共性が一定あると判断した。
- ・持続可能な運行とするため、法定検査を受けて交互運行ができるようにし、車両が安全に、また、継続的に運行できる体制づくりを支援する。
- ・支援内容は、これまでの法定検査費用補助の対象経費にメンテナンス経費を加えた上で、補助率を2分の1にかさ上げし、上限を設定する。
- ・上限額の設定は、伊予鉄道から示されているメンテナンス経費の見込み（4千～5千万円程度）を参考に検討する。
- ・目的や必要性が丁寧に説明できるよう、市と伊予鉄道で詳細を協議し、議会に提案する。

（参加者）

- ・議会の承認を前提に、支援の方向性については賛同する。
- ・坊っちゃん列車は松山の観光の風景で、非常に重要なコンテンツである。
- ・このプロジェクトが始まった当初の精神に敬意を表し、今後も大切に継続してもらいたい。
- ・市は、観光行政を進める上で、坊っちゃん列車の重要性、支援の必要性を議会や市民にしっかり説明してほしい。
- ・地域をリードする公共交通事業者、地域の観光の要として、伊予鉄道にも、連携した取組を強く願います。
- ・地域全体に対する観光のビジョンやプラットフォーム、観光DXなどを考えながら、観光の核になるような構想をしていくことが必要である。
- ・将来の設備更新も見通して、伊予鉄道と松山市でコミュニケーションをとってほしい。
- ・運休中、運行再開に向けて協力いただきたいと松山市に要望した。
- ・人口減少の中で、インバウンド誘致を促進するためにも、坊っちゃん列車は重要な資源である。
- ・松山市と伊予鉄道が連携しながら運行を継続していただき、我々も国内外の関係団体との連携やPRをしていきたい。
- ・海外でも坊っちゃん列車のイメージがある。
- ・旅行会社と共同して道後温泉本館の入浴券と坊っちゃん列車の乗車券をセットにして、予約できる枠組みを作り、8席枠に対して30%を超える消化率となっている。旅行業界的には高い数値。4月から新たな商品化も決定しており、今後も細かい努力を積み上げていきたい。
- ・アンケートで8割近い方が継続を望んでおり、観光コンテンツとして、非常に高い力があると認識した。
- ・市の関与を求める割合が61%ほどあり、負担額も1,000～2,500万円が一番多いので、支援策としても妥当ではないか。
- ・松山市の方向性について賛同の立場である。
- ・報告書から、坊っちゃん列車に乗るという経験価値が高く評価されている一方、今後継続をしていく場合は観光事業者、非観光事業者で連携し、いろいろなプログラムの可能性を検討しなければならない。
- ・市民、観光客ともに歴史性・文化性・松山らしさ、イメージなど、簡単に作ることが

できないこれらのものを高く評価しており、代替のないものだということが読み取れる。

- ・松山全体の観光ビジョンや将来構想の中に坊っちゃん列車が取り込まれ、乗車するだけでない価値を提示していく必要がある。
- ・市民が坊っちゃん列車をアイデンティティや誇りと捉えていただけるように、支援していく以上、社会的な説明を果たしていくことが必要である。
- ・目先の観光コンテンツとしてだけでなく、将来に向けた投資として説明していくことが必要である。
- ・今後も様々な立場のステークホルダーで対話していくことが必要である。
- ・アンケート結果から、坊っちゃん列車は松山のシンボル、無くてはならない景色であり、市の支援の公益性について、市民の理解が得られるのではないかと考えた。
- ・赤字の負担額についても、アンケート結果を踏まえた水準であれば、理解が得られるのではないかと考えた。
- ・今後も事業をどう継続させるかが大事であり、赤字を少なくする努力、アンケートも参考に、事業性を上げていく、より魅力あるものにしていく取り組みが必要である。
- ・方向性について、理解したし、賛同する。
- ・坊っちゃん列車はすごく魅力があり、坊っちゃん列車がなくなると、まちのイメージダウンになる。
- ・公益性はあると思うし、支援には賛同する。
- ・経済効果よりも、まちのイメージを高める面で貢献していることにもっと大きな意味があるのではないかと。
- ・市民には乗ったことはなくても走っている姿が好きという人も多い。道後温泉もそうだが、観光客のための施設というイメージで、地元の人こそなかなか利用していないので、市民向けの施策の展開が必要だと思う。
- ・アンケート結果だけをみると税金を投入しなくていいのではないかという意見もあると思うが、市全体の経済効果を理解して、アンケートに答えると結果も変わってくるのではないかと感じた。
- ・坊っちゃん列車は公共交通ではないので、経済効果で公共性が認められるかが争点だったと思う。
- ・アンケート結果は非常に重く受け止めるべき。
- ・議会として十分に議論することが必要である。
- ・議員は市民を代表して選出されているので、様々な意見があるが、十分に議論されることが望ましい。そのために予算を判断できる材料を提示してもらえることが大事である。
- ・立場上、賛否を申し上げることはできない。
- ・大きな議論を期待している。
- ・運休した時に、全国から応援や励ましの声をいただき、改めて坊っちゃん列車が観光の顔になっていると感じた。
- ・坊っちゃん列車は古い車両なので、毎日のメンテナンスが安全に直結する。
- ・メンテナンスを通じて、できるだけ長く運行をできるように努める。

以上